

平成26年度  
八重山平和祈念館 高校生ガイド養成講座  
第2回講座

# 八重山の戦争

# 石垣島に軍隊がやってきた！

- 1943(昭和18)年12月 **観音寺部隊**  
→フィリピン・台湾・本土を結ぶ輸送船を維持するため
- 1944(昭和19)年2月
  - **平得飛行場の建設**が始まる
  - 600人余りの朝鮮人・離島も含む島の人々を「**根こそぎ動員**」
  - 1日に2000名

# 独立混成第45旅団

- 1944(昭和19)年8月 駐在
- 任務: ①飛行場の建設  
②長期持久戦に備えて陣地を構築する
- 司令部: 八重山農学校(現 農林高校)
- 平得・白保の飛行場建設や軍の陣地づくりが急ピッチで進められる。

# 旅団司令部が置かれた八重山農学校



# 石垣島の初空襲

- 1944(昭和19)年10月12日 平喜名飛行場



# 困窮する人々の生活

- 徴用

子どもから老人まで男女も関係なく、飛行場建設・陣地づくりに動員

- 供出

食糧(家畜も含む)・陣地を作るための木材・鍋・釜・ムシロ・蚊帳など

- 飛行場用地の接收

⇒軍の命令＝「天皇の命令」 ⇒逆らう者は「非国民」  
スパイ扱い



勤勞奉仕隊 西表班児童らによる道路開削奉仕作業



イモの増産に励む新川の青年たち

# みのかさ部隊



# みのかさ部隊の鉄かぶと



みのかさ部隊の鉄かぶと  
(石垣市立八重山博物館所蔵)  
Minokasa Brigade's steel helmets.  
(from the collection of the Ishigaki Municipal Yaeyama Museum)

# 石垣島攻撃に向かうアメリカ軍戦闘機



# 爆撃を受ける白保飛行場



# 伊舎堂 用久 中佐

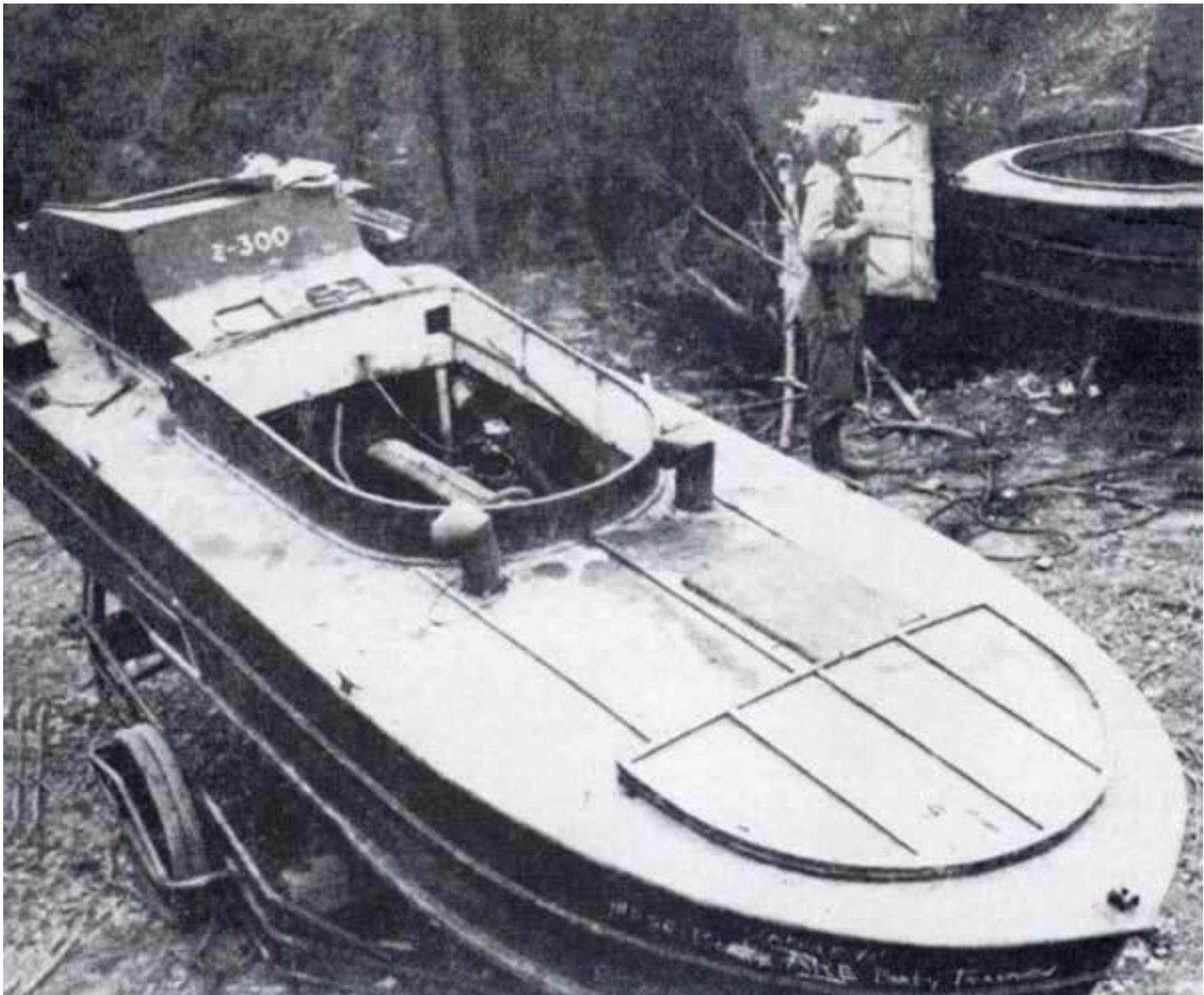


- 登野城出身
- 1945(昭和20)年3月26日、白保飛行場から飛び立ち、特攻攻撃を行う。
- 当時24歳。

# 海軍石垣島警備隊

- 1944(昭和19)年 暮れ
- 司令部: バンナ岳
- 任務: 川平湾と宮良湾に秘密兵器「震洋」の出撃基地を建設する

※川平村の住民はこの基地建設のために立ち退き命令を出され、軍に振り回される。









# 石垣島事件

1945(昭和20)年 4月15日



# 尖閣列島遭難事件



1969(昭和44)年に魚釣島に建立された慰霊碑

- 1945(昭和20)年6月30日台湾疎開のため、石垣港を出発(老幼婦女子、180名乗船)
- 7月3日尖閣諸島付近で米軍機の攻撃を受け、生存者は魚釣島へ上陸
- 食糧難で餓死者も出始めたため、決死隊9名が石垣島へ助けを呼びに行く。
- その後救助されたが、80名が亡くなったとされる。



# 八重山の空襲

- 初空襲は1944(昭和19)年10月12日
- 1945(昭和20)年元旦から空襲
- 1~2月は散発的
- 米軍が慶良間列島に上陸した3月下旬からは猛烈な空襲にさらされた。



- 死傷者が出るようになり、避難生活を始める住民も出始める(第一次避難)

# その頃、離島では...

- 黒島  
2月に西表島東部、カサ崎への疎開命令  
4月下旬～避難開始
- 波照間島  
3月下旬に西表島への疎開命令が伝えられ  
4月8日～避難開始
- 鳩間島  
3月下旬に西表島北岸へ疎開を指示され、避難開始
- 竹富島  
4月、由布島への疎開命令(竹富町史)
- 新城島  
3月下旬に西表島大原へ疎開開始(竹富町史)



# 八重山の学徒たち

- 男子学徒                    1945(昭和20)年3月
  - 八重山農学校・八重山中学校の生徒200名  
余りを動員し、「**鉄血勤皇隊**」を編成
  - 米軍の来襲を見張る、切断された電話線の  
処置、弾丸を於茂登岳の奥まで運ぶ、爆弾を  
抱えて戦車に体当たりする練習など
  - 少ない食糧と最悪な水事情、重労働の軍隊  
生活でマラリアやパラチフスにかかる生徒が  
続出





## ○女子学徒 1945(昭和20)年3月

- ・八重山高等女学校と八重山農学校の生徒
- ・2月～3月看護婦教習(墓の中や松の下)
  
- ・卒業と同時に「従軍看護婦」として動員され、  
於茂登岳中腹の陸軍病院・開南の野戦病院へ
  
- ・はじめのうちは、防空壕掘りや医薬品の運搬等  
終戦間際は、多くの傷病兵の看護と死体処置  
を行った。



速成の看護講習が行われた墓地跡

第貳拾參號

看觀術教育修了證書

津總縣立八雲山高等女學校

第四學年 小瀨清

右者

自昭和二十年五月五日  
至昭和二十年五月五日  
辛日 間

球第四一七三 部隊ニ於テ

實施セル看觀術教育ノ課

程ヲ修了セル事ヲ證ス

昭和二十年三月三十一日

陸軍省  
陸軍省  
陸軍省

陸軍省  
陸軍省

正七位 池田





# マラリア悲劇のはじまり

- 1945(昭和20)年6月1日

「官公庁は5日までに、一般住民は10日までに避難を完了するように」と口頭で命令

## ・指定された避難地

登野城・大川

→白水へ

石垣

→川原山・外山田へ

新川

→ウガドウ

平得・真栄里・大浜・宮良

→武名田原へ

白保

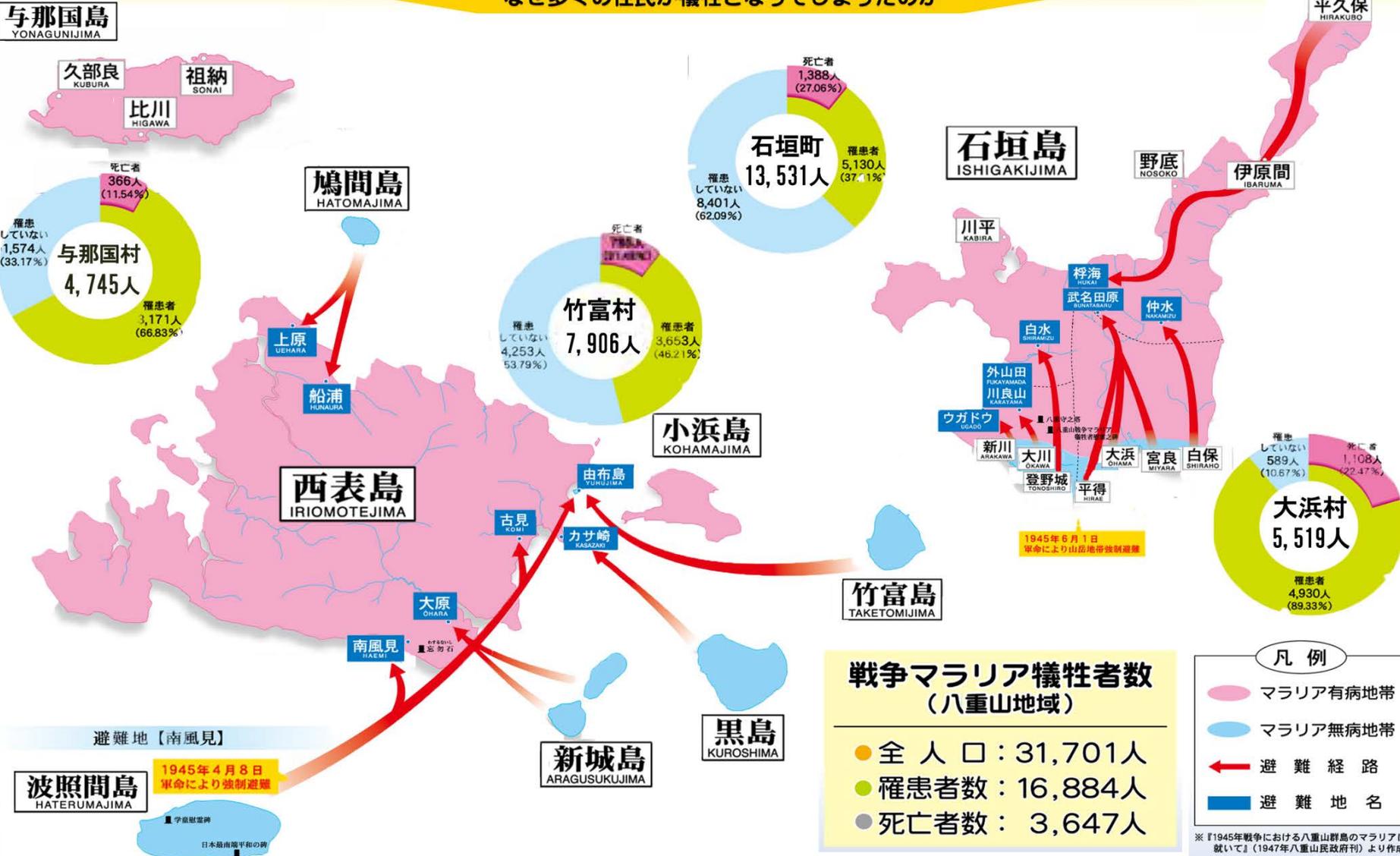
→仲水へ

伊原間・平久保

→桴海へ

# 戦時中の軍命によるマラリア有病地への退去(強制避難)

沖縄戦当時米軍上陸がなかった八重山の島々において  
なぜ多くの住民が犠牲となってしまったのか



## 戦争マラリア犠牲者数 (八重山地域)

- 全人口：31,701人
- 罹患患者数：16,884人
- 死亡者数：3,647人

**凡例**

- マラリア有病地帯
- マラリア無病地帯
- 避難経路
- 避難地名

※『1945年戦争における八重山群島のマラリアに就いて』(1947年八重山民政府刊)より作成

- すべて、マラリア有病地帯（山岳地帯）への避難命令！！

軍の命令は「天皇の命令」



逆らえば「スパイ扱い」「非国民」呼ばわり

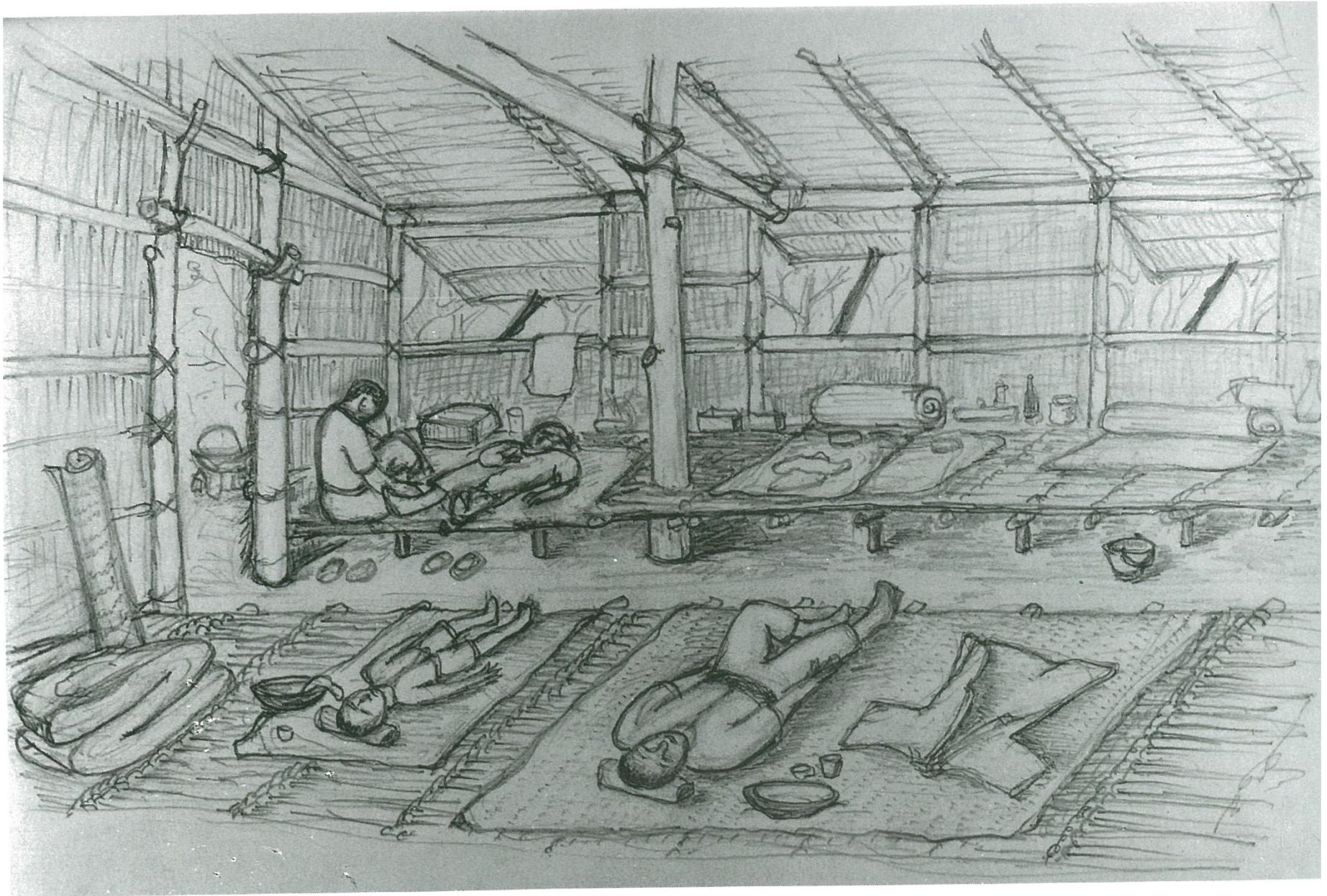
- ・キニーネも不足したまま、山への避難がはじまる（第二次避難）

# 避難先での生活

- 不衛生な環境
- 食糧難
- 足りない薬（キニーネ）



白水の避難小屋



白水の避難小屋内の様子



家族の亡骸を運ぶ

ほとんどの人がマラリアに罹患していたため、マラリア患者を看病できる人もいなければ、医師に連絡する人も無く、遺体を処置することさえ困難な状況



武名田原に残る避難生活の跡

# 避難地から部落への帰還

- 避難命令が解除されたのは1945（昭和20）年  
7月23日
- 8月初旬に大体の帰還が終わるものの、  
マラリアで動けない人も多く、9月初旬まで  
白水方面に残った人もいた。
- 離島住民も各部落へ全員が帰れたのは  
9月初旬。

# 戦争マラリアの犠牲者数

住民の年齢別マラリア死亡状況

	～5	6～10	小計	11～15	16～20	小計	21～30	31～40	41～50	51～60	61～	計
罹患者数	1,751	2,042	3,793	2,258	1,917	4,175	2,113	1,856	1,681	1,471	1,467	16,884
死亡者数	652	380	1,032	225	160	385	248	342	387	419	834	3,647
%	37.23	<del>18.61</del>	27.21	9.96	8.35	9.22	11.74	18.43	23.02	28.48	56.85	21.6

18.60

「八重山の戦争」 大田静男著 資料編より

沖縄戦の真相にふれるたびに

戦争というものは

これほど残忍で　これほど汚辱にまみれたものはない  
と思っております

この　なまなましい体験の前では  
いかなる人でも

戦争を肯定し美化することは　できません

戦争をおこすのは　たしかに　人間です

しかし　それ以上に

戦争を許さない努力のできるのも  
私たち　人間　ではないでしょうか

戦後このかた　私たちは

あらゆる戦争を増み

平和な島を建設せねば　と思いつづけてきました

これが

あまりにも大きすぎた代償を払って得た  
ゆるぎることのできない

私たちの信条なのです